

- 問1 東京23区の人口動態について、神奈川県、埼玉県、千葉県などの周辺県から多くの人々が通勤・通学のために移動する状況を踏まえ、昼間人口と夜間人口の関係を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 練馬区や江戸川区といった住宅地が多い周辺の区では、都心部へ向かう人々よりも都心部から来る人々の方が多いため、昼間人口が夜間人口を上回る。
 2. 東京23区は日本の中心地であるため、すべての区において周辺県から流入する人々が居住者を上回り、昼間人口の方が多くなっている。
 3. 近年の都心部への住み替えが進んだ結果、千代田区などの都心部では居住者数が急増し、夜間人口が昼間人口を上回る逆転現象が起きている。
 4. オフィスや官公庁が集中する千代田区や中央区では、周辺地域から流入する人々によって昼間人口が夜間人口を大きく上回る。
- 問2 冬の関東地方において乾燥した晴天の日が多くなる理由として、最も適切なものを次のうちから1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 北西からの季節風が山脈を越える際に日本海側で水分を失い、乾いた風となって吹き下りてくるため。
 2. 南東からの季節風が太平洋上の湿気を吸収し、関東平野に暖かい空気を供給し続けるため。
 3. 北西からの季節風が関東平野の河川から水分を奪い、雲の発生を抑えるはたらきをするため。
 4. 南東からの季節風が山脈に遮られることで、関東地方全体で風がほとんど吹かなくなるため。
- 問3 東京国際空港（羽田空港）から、新千歳空港や那覇空港へ向かう航空路線の旅客輸送数は、他の都市間を結ぶ路線に比べて非常に多いことが特徴です。このように、長距離区間において航空機の利用が鉄道（新幹線）に対して高い競争力を持つ主な理由として、適切な説明はどれですか。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 北海道や沖縄県には鉄道が一切通っておらず、島国である日本において他地方と移動する手段が航空機に限られているから。
 2. 航空機は鉄道に比べて一度に運べる貨物量が多いため、旅客と同時に大量の農産物を輸送するのに適しているから。
 3. 羽田空港と新千歳・那覇を結ぶ路線は、主に海外からの観光客が国際線から乗り継ぐための専用路線として整備されているから。
 4. 目的地までの距離が遠くなるほど、移動にかかる所要時間の短縮効果が、鉄道に比べて航空機の方が大きくなるから。
- 問4 関東地方の人口移動に関する資料において、埼玉県や千葉県は「昼夜間人口比率」が100を下回る傾向にあります。このような、都心部へ通勤・通学する人々の居住地としての役割が強く、昼間の人口が夜間の人口よりも少なくなる地域を指す言葉として適切なものはどれですか。 (2018年 兵庫県公立入試 類似)
1. 限界集落
 2. ベッドタウン
 3. ニュータウン
 4. 政令指定都市
- 問5 北関東の栃木県と群馬県の県境付近、渡良瀬川の上流部に位置していた足尾銅山において、鉱毒被害が広範囲に拡大した地理的な理由として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 大阪府公立入試 類似)
1. 利根川の河口付近に位置していたため、潮の満ち引きによって有害物質が千葉県沿岸の漁場に逆流した。
 2. 山間部の水源近くに銅山があったため、有害物質が川の流れに乗って下流の平野部にある農地まで運ばれた。
 3. 内陸の盆地で精錬が行われたため、有害物質が霧とともに周辺の山々に蓄積し、土砂崩れを頻発させた。
 4. 新潟県側の豪雪地帯から流れる地下水と反応し、有害物質が広範な水田地帯の土壌に浸透した。
- 問6 近年の東京都における人口動態について、出生数と死亡数の差である「自然増加率」と、転入者数と転出者数の差である「社会増加率」を比較したとき、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 自然増加率と社会増加率がほぼ等しい割合で推移しており、バランスの取れた人口増加が続いている。
 2. 社会増加率はマイナスであるが、自然増加率がそれを補うほど高いため、全体の人口は増加している。
 3. 自然増加率が社会増加率を上回っており、主に子どもの誕生によって人口が増え続けている。
 4. 社会増加率が自然増加率を一貫して上回っており、他地域からの人口流入が人口増加の主因となっている。
- 問7 東京都中央卸売市場におけるキャベツの出荷量について、上位5県のうち、千葉県や茨城県などの関東地方の県が占める合計の割合を統計で示した際、その数値として適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 90パーセント
 2. 40パーセント
 3. 70パーセント
 4. 50パーセント
- 問8 日本の工業出荷額の統計において、中京工業地帯に次ぐ規模を維持し、近年その割合を上昇させている北関東工業地域の背景について、正しい記述はどれですか。 (2022年 佐賀県公立入試 類似)
1. 高速道路を利用したトラック輸送の利便性を活かし、内陸部に電気機械などの加工組立型工業が集積したため。
 2. 豊富な地下資源と水力発電を利用するために、山間部へアルミニウム精錬工場が数多く誘致されたため。
 3. 太平洋沿岸の良好な港湾施設を活かし、海外からの原料輸入に依存する鉄鋼業や石油化学工業が発展したため。
 4. 東京に近い利点を活かし、中小規模の工場による印刷業や食料品工業が都市部で高度に発展したため。
- 問9 ある年の統計において、東京都の社会増加率は0.80、自然増加率は0.05でした。その4年後の統計では、社会増加率が0.66と依然として高いものの、自然増加率はマイナス0.01を記録しました。この2つの時点のデータを比較して読み取れる、東京都の状況として適切な記述を選びなさい。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 社会増加率が自然増加率よりも高い状態は解消され、自然増加率が東京都の人口動態における最大の決定要因となった。
 2. 社会増加率が低下傾向にあるため、東京都では沖縄県などのように自然増加を主軸とした人口維持政策に切り替わった。
 3. 自然増加率の低下は東北地方で見られる傾向とは異なり、東京都では出生率が急上昇した結果、死亡数が上回ったことを示している。
 4. 自然増加率がマイナスに転じたことで、東京都の人口増加は他地域からの流入（社会増加）に依存する構造がより鮮明になった。
- 問10 千葉県は、巨大な消費地である東京に近いという立地条件を活かし、野菜や花きを生産して高い産出額を上げ、鮮度が重視される作物を迅速に出荷しています。このような、都市の周辺で行われる農業の形態を何と呼びますか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 近郊農業
 2. 粗放的農業
 3. 促成栽培
 4. 抑制栽培
- 問11 国土地理院の発行する地形図において、皇居外苑の南側に位置し、法務省や警視庁といった官公庁の建物に隣接して記載されている歴史的建造物（門）の名称として正しいものを選択してください。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 桜田門
 2. 半蔵門
 3. 日比谷門
 4. 二重橋
- 問12 千葉県浦安市付近の地形図を用いた地域調査において、河川沿いに位置する「建物が密集し、細い路地が入り組んだ古い商家の建物が残る地区」を調査対象としました。このような地区の景観や土地利用に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)
1. 高度経済成長期以降に海を埋め立てて造成された工業地帯
 2. 等高線が密に描かれる、傾斜地の森林を切り開いた住宅地
 3. 近年、大規模な再開発によって計画的に整備された新市街地
 4. 古くからの町並みや伝統的な商業活動の面影を残す地区

答え合わせ・解説

問1	答え 4 オフィスや官公庁が集中する千代田区や中央区では、周辺地域から流入する人々によって昼間人口が夜間人口を大きく上回る。	東京都心部（千代田区、中央区、港区など）はオフィス街や官公庁、商業施設が集中しているため、神奈川、埼玉、千葉などの隣接する県や、都内の周辺部から多くの通勤・通学者が流入します。そのため、居住者数を示す「夜間人口」に比べて、昼間に滞在している「昼間人口」が極端に多くなる傾向があります。特に千代田区では、昼間人口が夜間人口の17倍を超えるなど、その差が顕著です。
問2	答え 1 北西からの季節風が山脈を越える際に日本海側で水分を失い、乾いた風となって吹き下りてくるため。	冬の日本にはユーラシア大陸から北西の季節風が吹きます。この季節風は日本海で水分を含んで日本海側に雪をもたらした後、越後山脈などを越える際に水分を失います。そのため、山を越えて関東地方に吹き下りる風は乾燥しており、晴天をもたらします。
問3	答え 4 目的地までの距離が遠くなるほど、移動にかかる所要時間の短縮効果が、鉄道に比べて航空機の方が大きくなるから。	交通手段の選択には、目的地までの距離と所要時間が大きく関係しています。一般に、移動距離が数百キロメートルを超える長距離になると、新幹線などの鉄道よりも、高速で移動できる航空機の方が時間的な優位性が高まります。東京―大阪間のように新幹線と航空機が激しく競合する区間もありますが、より距離のある札幌や沖縄方面では航空機の利用が圧倒的に多くなり、旅客輸送数の増大につながっています。
問4	答え 2 ベッドタウン	昼夜間人口比率が100を下回る地域は、その地域に住んでいる人が昼間に他の地域（主に都心部）へ働きに出ていることを意味します。関東地方では東京都の比率が高い一方で、住宅面積の確保がしやすく都心へのアクセスが良い埼玉県、千葉県、神奈川県の一部などが、通勤者の居住地であるベッドタウンとしての性格を強めています。
問5	答え 2 山間部の水源近くに銅山があったため、有害物質が川の流れて下流の平野部にある農地まで運ばれた。	足尾銅山は渡良瀬川の源流に近い位置にありました。精錬過程で排出された鉱毒や、燃料とするための森林伐採によって生じた土砂が、洪水とともに下流の平野部へ流れ出したことが被害拡大の要因です。このため、被害は栃木県内にとどまらず、渡良瀬川が流れる群馬県、埼玉県、茨城県など広範囲に及びました。
問6	答え 4 社会増加率が自然増加率を一貫して上回っており、他地域からの人口流入が人口増加の主因となっている。	東京都の人口増加の構造は、出生と死亡の差による「自然増加」よりも、進学や就職に伴う他県からの転入超過による「社会増加」の寄与が極めて大きいのが特徴です。多くの地方自治体で人口減少が課題となる中、東京都は利便性や雇用機会を背景に、全国から継続的に人口を吸収し続けています。
問7	答え 2 40パーセント	東京都中央卸売市場におけるキャベツの出荷状況をまとめた統計資料によると、出荷量の上位5県には関東地方の県が多く含まれています。その合計割合は、全体を示す帯グラフなどの指標において、0から40パーセントまでの範囲を占める規模となっており、東京都にとって関東地方が主要な供給源であることを示しています。
問8	答え 1 高速道路を利用したトラック輸送の利便性を活かし、内陸部に電気機械などの加工組立型工業が集積したため。	かつての日本の工業は港を利用した臨海型の重化学工業が中心でしたが、北関東工業地域は「内陸型」の工業地域として発展しました。地価が安く広い土地が確保できること、そして高速道路網によって大消費地である関東地方や全国各地へのアクセスが良いことから、特に電気機械などの付加価値が高い加工組立製品の生産拠点となりました。この構造的な強みが、近年の出荷額割合の増加につながっています。
問9	答え 4 自然増加率がマイナスに転じたことで、東京都の人口増加は他地域からの流入（社会増加）に依存する構造がより鮮明になった。	東京都では少子高齢化の影響により、出生数が死亡数を下回る「自然減（自然増加率のマイナス）」が発生する年があります。それにもかかわらず東京都の人口が維持・増加しているのは、それを補って余りある転入超過（社会増加）があるためです。このように、自然増加と社会増加のバランスが極端に社会増加へ偏っているのが、日本の首都である東京都の人口動態の大きな特色です。
問10	答え 1 近郊農業	千葉県のように大都市の周辺に位置する地域では、消費地までの距離が近いことを活かして、収穫から短時間で届ける必要がある野菜や花きを栽培する「近郊農業」が発達しています。輸送費が抑えられるほか、消費者のニーズを素早く生産に反映できるという利点があります。
問11	答え 1 桜田門	皇居の南側に位置する桜田門は、地形図上では警視庁の目の前に記される重要なランドマークです。江戸城の遺構であるとともに、幕末の大老・井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」の舞台としても知られています。二重橋は正門鉄橋を指し、日比谷門は現在の霞が関方面に近い位置にありました。
問12	答え 4 古くからの町並みや伝統的な商業活動の面影を残す地区	地形図上で建物が密集し、路地が複雑に入り組んでいる様子は、都市計画が進む以前の古い町並みが維持されていることを示唆しています。浦安市においては、旧町役場周辺などに漁師町としての伝統を残す商店街や古い建物が見られ、これらは直線的な道路が並ぶ埋立地（新市街地）の景観とは明確に区別されます。地形図の読図を通じて、その土地の歴史的な成り立ちを推察することが可能です。